



**ユーгент・フィルハーモニカー  
第10回定期演奏会**

**2016年3月12日(土)**

**開演 13:30 (開場 13:00)**

**すみだトリフォニーホール 大ホール**

W. A. モーツァルト 歌劇《魔笛》序曲 K.620

W.A.Mozart: "Die Zauberflöte" Overture, K.620

R. シュトラウス ホルン協奏曲 第 2 番 変ホ長調 Op.86

R.Strauss: Horn Concerto No.2 in E-flat major, Op.86

-- 休憩 --

J. ブラームス / A. シェーンベルク編 ピアノ四重奏曲 第 1 番 小調

J.Brahms/A.Schoenberg: Piano Quartet in G minor, Op.25

※開演中は携帯電話の電源をお切り下さい。

※他のお客様のご迷惑となりますので、演奏中のお席の移動はご遠慮ください。

※未就学児をお連れのお客様はモニタールームにてご観覧ください。

## ご挨拶

本日は、ユーгент・フィルハーモニカー第 10 回定期演奏会に足をお運びいただき、誠にありがとうございます。

文京シビックホールでの第 1 回演奏会から早いもので 10 年が経ちました。10 年の間に当時中心だった学生団員の多くは社会人となり、多忙の中それぞれが音楽に向かい合うことに四苦八苦しております。しかしながら、そのような中でも音楽活動をする意欲はさらに高まり、限られた時間の中でもさらに挑戦的な活動をしていくような活気のある楽団に成長したのではないかと感じております。

今回の記念すべき第 10 回目の演奏会は、当楽団元団員でホルン奏者の青木宏朗氏をお招きしお送りいたします。10 回という記念すべき回に何か特別なことはできないだろうかという話となり、お声かけをしたところ快くお引き受けくださいました。

また、今回の演奏会は第 1 回演奏会でお送りしたブラームスの交響曲 1 番に思いを寄せて、ブラームスのピアノ四重奏曲 第 1 番を田中一嘉先生の指揮のもとお送りします。

最後になりますが、今回ご指導いただいた田中先生をはじめ、演奏会にお力添えいただいた皆様、そしてご来場いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

ユーгент・フィルハーモニカー代表 本郷 一真



## 指揮者紹介



### 田中 一嘉 Kazuyoshi Tanaka

東京生まれ。桐朋学園大学音楽学部卒業。

指揮を故斎藤秀雄、小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明の各氏に師事。コントラバスを江口朝彦、堤俊作の両氏に師事する。在学中より同大オーケストラ定期演奏会、オペラ公演等を指揮し、故斎藤秀雄、森正、秋山和慶の各氏及びブロードス・アール氏、河里予俊達氏、フランコ・フェラーラ氏らの指導を受ける。学外では、日本オペラ協会、長門美保歌劇団、東京アカデミー合唱団指揮者として、数多くのオペラ、合唱曲、特に宗教音楽分野での実績を積む。76年、大学在学中に第

4回民音指揮者コンクール（現東京国際音楽コンクール）入選。奨励賞受賞。卒業後、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、群馬交響楽団指揮者を歴任。これまでに、東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、九州交響楽団、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉、オーケストラ・アンサンブル金沢等、日本の主要オーケストラを指揮する。92年にはヤナーチェク春の音楽祭（チェコ・オストラヴァ）にてヨーロッパデビュー。95年にはカルロビ・ヴァリ交響楽団を指揮。00年ドイツ・ロットヴァイル夏の音楽祭、01年ベルリン日本週間での公演、03年ウィーン・ムジークフェラインザールでの日墺合同第九演奏会等その活動は多岐に及んでいる。88年より昭和音楽大学講師。ユーгент・フィルには08年から第2回、第3回、第6回定期演奏会に客演。今回で4度目の共演となる。

## ソリスト紹介



### 青木 宏朗 Hiroaki Aoki

1985年生まれ。東京音楽大学卒業。

第83回日本音楽コンクールホルン部門第2位（1位無し最高位）。他多数のコンクールで上位入賞。

現在、兵庫芸術文化センター管弦楽団ホルン奏者。

ユーгент・フィルには第1回～第5回定期演奏会に出演。

#### 【本人よりコメント】

今回、懐かしいメンバーと共演できてとても嬉しく思っています。どうぞお楽しみください！

## 1. 立ち上げの経緯

—そもそもユーゲント・フィルを立ち上げたきっかけはなんだったんですか？

A 2005年に日本青年館(\*1)が企画したユンゲオーケストラっていう大学生が集まったオケのヨーロッパ公演の参加メンバーで集まった時だったよね

U 横浜でバーベキューやった夜でしたね、半ば酔った勢いというか……(笑)

A でも、僕らの世代はジュネス(\*2)もオーケストラ大会(\*3)もなかったから、そこで我々の世代のムーブメントを起こそうみたいな空気はあった

H 青年館の音楽行事に参加しているメンバーって実は多くて、その人材を発掘したいって話もしてましたよね

N すみません！モスコミュールください！

H 最初の人集めは音出しオフって名前でやりましたね、とにかく人を集めて初見で交響曲弾いてそのあとは飲み会って流れ

Y (タバコを燻らせながらアンニュイな表情をしている)

A そう、そこでオケ作るけど参加しませんか！って呼びかけてね

U 今でも音出し会という形で恒例行事として残ってます、団員が自分が信頼している新しい人を紹介する形で人を集める方式

N 公式ホームページで団員を公募しなくても10年間人が集まり続けているという意味では上手くいってるね

Y (タバコの煙を空中に勢い良く吐き出す)

N すみません！モスコミュールもう一杯！！

## 2. 定期演奏会以外の活動

—定期演奏会が年1回なのは何か理由があるんですか？

A 理念に“社会にオーケストラがどのように貢献していけるか模索していこう”ってのがあって、自分達の演奏会やって満足するだけじゃなくて音楽を使って何をするかという視点を大事にしてるんだよね

H 毎年夏に“農村プロジェクト”って名前で長野県上田市武石地域にいった演奏会やりしてるでしょ、あれも立ち上げの頃からあった構想なんだよ

U 上田市出身の団員がいたからそこになったんだよね、今年でもう8回目

—室内楽演奏会も毎年やってますよね

H 関係者のみの団内イベントだけどね、でも結構みんな本気で演奏してる。普段とは別の楽器に挑戦する人もいたり

N 意外と団員の音を個別に聴く機会ってないから重要なイベントなんだよ

U 最初は8団体くらいからスタートしたけれど、今では26団体、朝から晩まで室内楽漬け。それまで話したことが無かった団員とアンサンブルを組むことで新しい繋がりが生まれる場にもなってる

\*1 一般財団法人日本青年館。大学生を中心としたユンゲオケの欧州公演の他にも、全国高等学校選抜オーケストラフェスタや全日本高等学校選抜オーケストラ・オーストリア公演など様々な音楽行事を主催している。

\*2 ジュネス・オーケストラ。青少年音楽日本連合によるオーディションで選ばれた学生を中心に組織されたオーケストラ。この出会いをきっかけに結成されたアマオケも多い。2001年活動停止。

\*3 全日本大学オーケストラ大会。公益財団法人ソニー音楽財団が主催していた全国の大学オケが交流するイベント。2003年に終了。

— そうですねテレビにも出てましたよね、僕は当時まだ中学生でしたけどオンエア見てました(笑)

A そういわれると時の流れを感じる、もう30代かあってちょっと落ち込む。酒も弱くなったよな、こないだなんて酔っ払って知らないトルコ人と喧嘩してたもん

一同 (笑)

Y (タバコをもみ消し、新しいタバコに火をつける)

H 最初に出たのは日テレの24時間テレビでしたね

U そう、ヘリウムガスの中でオーケストラが演奏するとどうなるかって企画

— テレビ的ですね、嵐と共演していて凄いな—とってました

U 実はその後も何度か嵐とは共演していて何かと縁があるんだよ。嵐の宿題くんって番組にも出だし、なんといつても……

— アラフェス(\*4)ですね、今は無き国立競技場でやった

N そうそう、そのライブ中で演奏したオケにもウチのメンバーが沢山参加してたんだよ

A 俺なんて指揮振ってたよ! DVDにもばっちり写ってるよ!(笑)

— 家族がファンなので、そのDVD実家にありますよ。そういわれてみると確かにユーゲントは嵐と何度も共演してますね!

N 嗚呼、俺もジャニーズ入りしたい。すいません!モスコミュールください!

### 3. 震災の中で行われた演奏会

A 今までを振り返るとやっぱり忘れられないのは第5回定期演奏会だな

U 2011年の震災があった年ですね、しかも本番が震災から8日後の3月19日という……

A 本番の数日前から僕の家が臨時事務局になって運営のメンバーが3人くらい常駐してたのよ、本番前日まで対応に追われて計画停電中止が発表されたのが午前3時、ほぼオールで迎えた本番だった(笑)

N でも演奏会やってよかったよね、お客さんも沢山来たし演奏会やってくれてありがとうって声も多かった、義援金も集まったし

A ユーゲントは僕も含め福島県出身者が多いのよね、東京では自粛ムードみたいなのが漂ってて、被災地出身だからこそそれは大きな勘違いだ!って訴えたかったのも正直ある(笑)

U 同じ年の夏には福島から双葉町の皆さんが避難生活していた加須で演奏しましたね

H 双葉の盆踊りを加須で再現しようってイベントの中で、AUNJクラシックオーケストラ(\*5)と共演したんですよ

A 震災ってこの団にとって一つの転換のきっかけになったと思うんだよね、団員が固定するようになったしそれに伴って団内イベントも色々と充実していったでしょ

H 合宿とか花見とかバーベキューとか漢飲みとか女飲みとか……なんだか飲んでばかりですね(笑)

A でもそれでみんな仲良くなって行って演奏にもプラスになった

H そして選曲も凶悪化してくというわけですね

一同 (苦笑)

U 第9回なんてドン・ファン、ブラ3、オケコンで分厚いステーキ3枚みたいなプログラム

N ブラームスといえば、ウチは定期的にブラームス取り上げてきたんだよ

\*4 国立競技場で行われたアイドルグループ嵐のコンサートの名称。2日間で8万人を動員した。ライブの様子が収録されたDVDはオリコン年間総合チャート第1位を記録した。

\*5 和太鼓、三味線、篠笛の井上良平と公平の双子ユニット「AUN(あうん)」が邦楽界で活躍する若手ミュージシャンを集めて結成したユニット。国内外で演奏活動を行っており、CDも数多くリリースされている。

- U 第1回がブラームスの交響曲第1番で、それから交響曲は4つとも演奏してきた  
 ーつまり第1回も第10回もブラ1ってわけですね、今回はシェーンベルクが編曲した変  
 なブラ1ですけど(笑)
- A そうそう、やっぱりドイツ語圏の作品を節目にやりたかったというのはあるし。原点  
 回帰という意味も込めてるよね
- N 今回もブラームスの交響曲第1番やろうかって話もあつたくらいだからね。すいませ  
 ん!モスコミュールください!
- Y (新しいタバコの箱を取り出し、タバコに火をつける)

#### 4. 育ってきた人材

- N しかし元々はユンゲオケのメンバーが中心だったけど、今は純粋に良い音楽がやり  
 たいって人が集まるようになったね
- ー鷹栖さん(\*6)とは第5回でR.シュトラウスのオーボエ協奏曲で共演してますよね
- A そうそう、そして今回青木君(\*7)とやるのもR.シュトラウス。凱旋公演はリヒャルトっ  
 て決めているわけじゃないんだけど(笑)
- H 人材の層が厚くなった分、変わった人も沢山集まって動物園みたいですけどね(笑)
- N 第7回のアンコールでやったドビュッシーの亜麻色の髪の乙女は、作曲家として活動  
 しているホルンの近藤君が編曲してくれて……
- U 今回のパンフレットで曲紹介を書ってくれたチェロの伸子ちゃんにも毎年お世話に  
 なっているね、感謝感謝
- N あ、そろそろ終電やばいよ。解散しよう!
- Y (タバコをもみ消しながら)じゃ次の店いこうか
- N ハイ、飲み行くよー!(パニック)

———長い夜は続く。(完)

\*6 鷹栖美恵子さん。ユーゲント・フィル第1-3期所属。2008年の「第25回日本管打楽器コンクール オーボエ部門」  
 で優勝。現在は東京都交響楽団首席オーボエ奏者として活動している。

\*7 青木宏朗さん。ユーゲント・フィル第1-5期所属。2014年の「第83回日本音楽コンクール ホルン部門」で  
 第2位(1位無し最高位)を受賞。

## ■ 今期の活動紹介

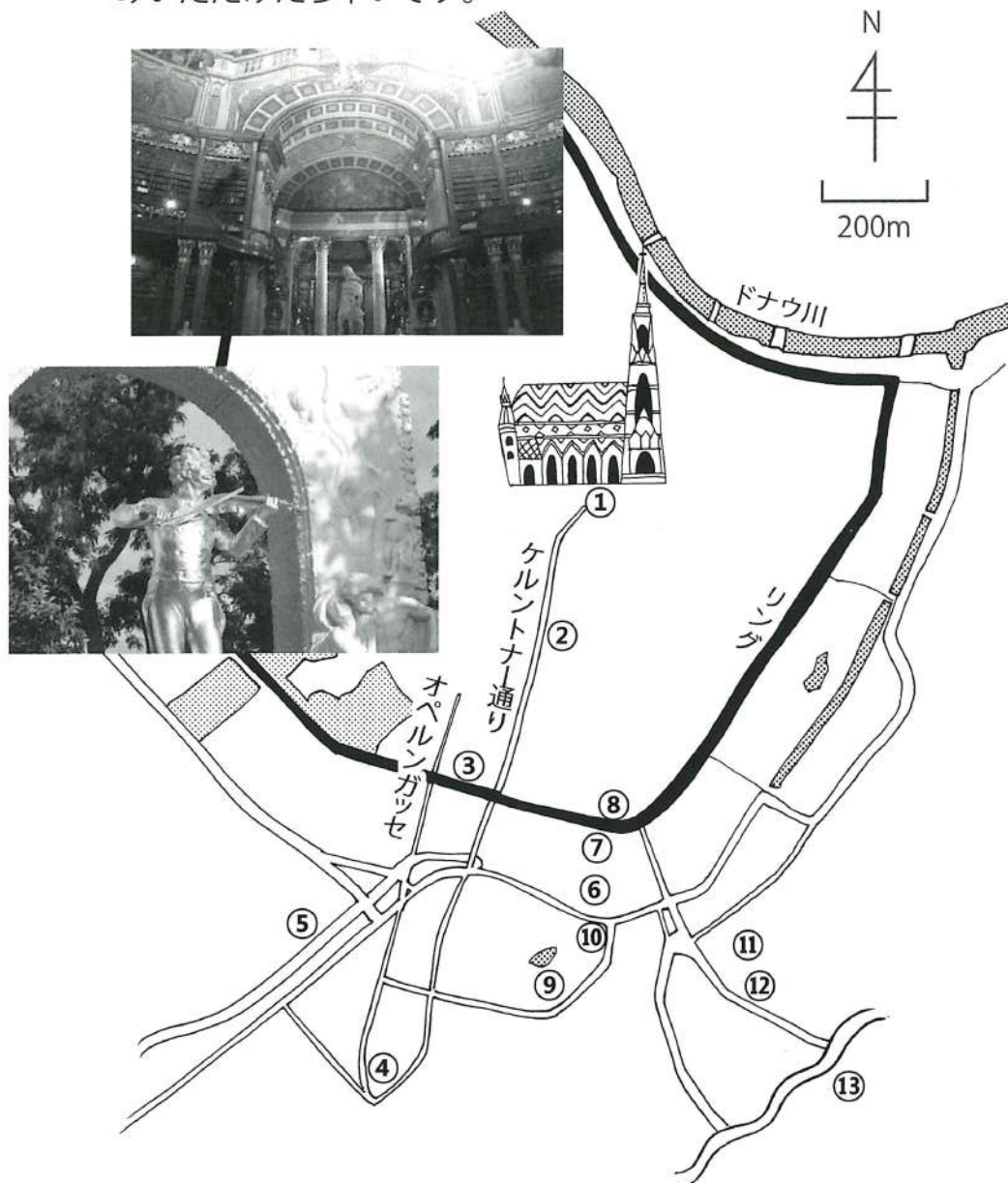
- |       |           |                               |                              |
|-------|-----------|-------------------------------|------------------------------|
| 2015年 | 3/21      | 第9回定期演奏会(すみだトリフォニーホール 大ホール)   |                              |
|       | 5/23      | 依頼演奏: デイホーム弦巻                 |                              |
|       | 6/6       | 依頼演奏 ドリームナイト: よこはま動物園ズーラシア    |                              |
|       | 6/27      | 依頼演奏: デイホーム上北沢                |                              |
|       | 9/12      | 依頼演奏: デイホーム上北沢                |                              |
|       | 9/19 - 22 | 第8回農村プロジェクト(長野県上田市武石)         |                              |
|       | 10/24     | 依頼演奏: デイホーム弦巻                 |                              |
|       | 11/29     | 室内楽演奏会(団内)(大田区民センター 音楽ホール)    |                              |
|       | 12/19     | 依頼演奏 クリスマスコンサート: よこはま動物園ズーラシア |                              |
|       | 12/23     | 依頼演奏 クリスマスコンサート: よこはま動物園ズーラシア |                              |
|       | 2016年     | 1/9 - 10                      | 合宿(山中湖畔荘 ホテル清溪)              |
|       |           | 3/12                          | 第10回定期演奏会(すみだトリフォニーホール 大ホール) |



- 2005/8 日本ユンゲオーケストラ  
ヨーロッパ公演
- 2005/10 横浜で BBQ
- 2006/1/3 音出しオフ会
- 2007/3/23 **第1回定期演奏会**  
ブラームス / 交響曲第1番
- 2008/8 24時間テレビ出演
- 2008/10 第1回農村プロジェクト
- 2008/11 鷹栖美恵子さん  
第25回日本管打楽器コンクール  
オーボエ部門優勝
- 2009/3 嵐の宿題くん出演
- 2009/3/21 **第3回定期演奏会**  
ブラームス / 交響曲第4番
- 2010/1 第1回室内楽演奏会
- 2011/3/19 **第5回定期演奏会**  
ブラームス / 交響曲第2番  
R. シュトラウス / オーボエ協奏曲 (独奏: 鷹栖さん)
- 2011/8 双葉盆踊り AUNJ と共演 @ 旧騎西高校
- 2012/9 アラフェス出演
- 2014/10 青木宏朗さん  
第83回日本音楽コンクール  
ホルン部門第2位 (1位無し最高位) 受賞
- 2015/3/21 **第9回定期演奏会**  
ブラームス / 交響曲第3番
- 2016/3/12 **第10回定期演奏会**  
ブラームス / シェーンベルク編ピアノ四重奏曲第1番  
R. シュトラウス / ホルン協奏曲第2番 (独奏: 青木さん)

## ■ 曲紹介 ユーゲンツと歩くウィーン —— 曲目解説にかえて

ユーゲント・フィルハーモニカー 10 回目の定期演奏会を記念して、今回は、ユーゲンツ（ユーゲント・フィル団員）と行く記念旅行へとみなさまをご招待いたします。今日演奏される曲目やその作曲家は、どれもオーストリアの首都ウィーンにゆかりの深いものばかり。プログラムに沿って、見どころいっぱいの音楽の都ウィーンのバーチャル・ツアーをお楽しみいただけたら幸いです。



ウィーンを中心部は、19世紀中ごろまで壁が建っていた「リング」と呼ばれる環状道路の内側とその周辺にぎゅっとまとまっています。その広さは皇居の2倍ほどです。リングの中央にはシュテファン大聖堂が街全体を見下ろすようにそびえ、その前の広場から南に向かって、たくさんの店が立ち並ぶ歩行者天国ケルトナー通りが真っすぐに伸びています。

では、シュテファン大聖堂 (①) から出発しましょう。モーツァルトが1782年にコンスタンツェと結婚式を挙げたのも、1791年に彼の葬儀が行われたのも、ここ。今日最初に演奏される歌劇《魔笛》が書き上げられたのは、モーツァルトが亡くなるたった3か月前のことでした。

ケルトナー通りを南に進むと左側に見えるシュテッフルというデパートの建物は、モーツァルトが最後に住み《魔笛》を作曲した家です (②)。建物の裏側の壁に記念プレートが掲げられているので、余裕があれば探しに行ってみても良いかもしれません。

ケルトナー通りをさらに南下し、ウィーン国立歌劇場 (③) を過ぎたらリングに沿って右に曲がり、ケルトナー通りと並行に一本西を通るオペルンガッセを、リングも越えて南へ進みます。クリムトなどの芸術家たちの溜り場だったカフェ・ムゼウムを通り過ぎ、ウィーン工科大学も過ぎた辺りに、ヴィーデン劇場の跡地 (④) があります。《魔笛》は、ここで1791年9月30日に初演されました。



## W. A. モーツァルト：歌劇《魔笛》序曲 K.620 (1791)

《魔笛》は全2幕のジングシュピール（ドイツ語の音楽劇）で、ヴィーデン劇場の経営者シカネーダーの依頼により作曲されました。物語の大きな筋は、神官ザラストロの王国と夜の女王が支配する闇の世界との対立と解決ですが、女王の娘パミーナと王子タミーノ、鳥刺しパパゲーノとパパゲーナ、という2組のカップルがめでたく結ばれるまでの道のりも描かれます。

序曲は、ゆったりとした序奏と颯爽と駆け抜けるアレグロの部分から構成されます。冒頭で奏される3つの和音は、アレグロの中盤で奏される3つの和音を変形させたもので、後者は劇中のパミーナとタミーノが試練を受ける場面の和音となっています。）

ヴィーデン劇場の跡地から西に行くと、ナッシュマルクトという市場の向こう側に、1801年にシカネーダーが建てたアン・デア・ウィーン劇場（⑤）があります。その裏門には笛を吹くパパゲーノの像があるので、モーツァルト・ファンや魔笛ファンは必見です。

今度はアン・デア・ウィーン劇場からまた中心部へと戻りましょう。広い通りを道なりに進んで行くと左手に見える赤い建物は、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の本拠地でありニューイヤー・コンサートの会場としても有名な楽友協会（⑥）です。リヒャルト・シュトラウスのホルン協奏曲は、場所は残念ながらここではありませんが、ウィーン・フィルによって初演されました。

## R. シュトラウス：ホルン協奏曲 第2番 変ホ長調 Op.86 (1942)

シュトラウスは生涯でホルン協奏曲を2つ書きましたが、第1番を書いたのは1883年で彼がまだ19歳のときでした。今日演奏される第2番を仕上げたのは1942年。60年もの時を隔てて作曲されたのにもかかわらず、興味深いことに、2つのホルン協奏曲の自筆譜には同じ種類のインクが使われているそうです。世界大戦によってあらゆるものが壊れ失われていくなか、シュトラウスは若き日を偲んで筆をとったのかもしれませんが。

第1楽章 アレグロ

第2楽章 アンダンテ・コン・モート

第3楽章 ロンド：アレグロ・モルト

さて、演奏会の休憩に合わせて、みなさまも一休みしましょう。楽友協会の隣にあるホテル・インペリアル（⑦）のカフェで優雅にインペリアル・トルテを、あるいはリングを渡って、リング沿い最古のカフェ・シュヴァルツェンベルク（⑧）の広々とした店内で日替わりのランチをいただくのがおすすめです。

なお、シュトラウスは1919年から24年まで、先ほど通り過ぎたウィーン国立歌劇場の総監督を務めています。さらに監督といえば、後半で演奏される作品の原曲を作曲したブラームスは、1872年から3年ほど楽友協会の芸術監督に就いており、楽友協会の向かい側にあるカールス教会（⑨）のすぐ傍のアパートに住んでいました（職場まで徒歩5分。うらやましい限りです）。ブラームスは亡くなるまで25年以上ずっとここで暮らしたようです。

カールス教会の隣にはウィーン・ミュージアム (⑩) があります。ここではクリムトやシーレの絵に紛れて、シェーンベルクの描いたアルバン・ベルクの肖像画を見ることができます。シェーンベルクは、新しく十二音技法を主唱した作曲家としてだけではなく、画家、演奏家、教育者、そして著述家として、多方面で活動しました。そんな彼は、1933年にブラームスの生誕100年を記念して行ったラジオ講演をもとに、1947年に論文「革新主義者ブラームス」を著します。当時ブラームスは一般に保守的と言われがちでしたが、シェーンベルクがこの論文で主張したのは、ブラームスの革新性でした。

## J. ブラームス / A. シェーンベルク編：ピアノ四重奏曲 第1番 ト短調 (1937)

ブラームスのピアノ四重奏曲には、論文でシェーンベルクが指摘したブラームスの革新性が多く盛り込まれています。一方でシェーンベルクは、ピアノが弦楽器の音を掻き消してしまいやすいというこの曲の難しさを指摘し、その魅力をより広域的確に伝えるべく、1937年に管弦楽のために編曲しました。彼は自信を持ってこう語ります。「私は50年近くブラームスのスタイルと原理に完全に精通しています。彼のたくさんの作品を自分自身や弟子たちと分析してきましたし、ヴァイオン奏者とチェロ奏者として、この作品をはじめとする作品を数えきれないほど演奏してきました。ですから私は、彼の音楽がどのように響くべきかを知っていたのです。私はこの響きをオーケストラへと置き換えただけです。」

第1楽章 アレグロ

第2楽章 インテルメッツォ：アレグロ・マ・ノン・トロppo トリオ：アニマート

第3楽章 アンダンテ・コン・モート

第4楽章 ロンド・アッラ・ツィンガリーゼ

ミュージアムを出て大通りを東へ進み、コンツェルトハウス (⑪) の手前を右に曲がったところには、シェーンベルク・センター (⑫) という研究施設があります。ここにはシェーンベルクの自筆譜などの資料がまとめられており (今日の作品の自筆譜の一部も)、シェーンベルク研究の拠点であるだけでなく、一般向けに企画展なども行われています。シェーンベルクの音楽はちょっと難しい…と思っていたあなたも、少し興味が湧いてきたのではないのでしょうか？

さあ、最後は路面電車に乗って中央墓地 (⑬) へ行き、大作曲家たちのお墓参りで締めくりましょう。中央墓地には、モーツァルトの記念碑と、ブラームスとシェーンベルクの墓が建っています。お気に入りの作曲家に花を供えるのも良い思い出になります。ウィーンという小さな街に、ひしめくようにたくさんの音楽家が暮らし、音楽を生み出してきたこと、そしてその音楽が今日の私たちにまで届いていること——帰り道は音楽と私たちをつなぐ歴史の不思議に思いをめぐらすことになりそうです。

ユーゲンツと歩くウィーンの旅、お楽しみいただけましたか？来年はまた別の街にみなさまをお連れできるかもしれません。ご期待ください！

中村 伸子 (音楽学)

イラスト 隠岐 麻美、Special Thanks 片桐 了

## ■ 楽団紹介

Jugend Philharmoniker (ユージュント・フィルハーモニカー) は、一般財団法人日本青年館の音楽行事 (全国高等学校選抜オーケストラフェスタ、全日本高等学校選抜オーケストラ・ヨーロッパ公演、日本ユングオーケストラ・ヨーロッパ公演) に参加したメンバーが中心となって 2006 年 3 月に創設されたオーケストラである。選抜オーケストラが母体となっているため、メンバーは様々な大学オケ出身のプレイヤーが揃っている。現在、団員約 80 名を越えるオケにまで成長し、定期演奏会を中心とした活動の他に、福祉施設や普段生のオーケストラに触れる機会のない農村への訪問演奏、その他、行楽施設の各種イベントやテレビ番組での依頼演奏など幅広い活動を行っている。

音楽的に人間的に成熟した団体作りに励みながら、「アマチュア・オケだからできること (≡プロオケには出来ないこと)」を追求することを理念としている。

## ■ 次回演奏会のお知らせ

### ユージュント・フィルハーモニカー 第 11 回定期演奏会

2017 年 3 月 25 日 (土) 午後公演

於 すみだトリフォニーホール 大ホール

曲目未定

---

後日ご案内をお送りしますので、アンケート用紙にご連絡先をご記入ください

お問い合わせ <http://jugend-phil.com/> (当団 Web サイト)

公式ツイッターアカウント @jugend\_phil : ユージュント・フィルハーモニカー

## ■ 依頼演奏

ユージュント・フィルハーモニカーでは学校・老人ホームなどの福祉施設や、その他各種イベントなどでの依頼演奏を受け付けています。詳しくは当団 Web サイトをご覧ください。